

あっ! そう!

令和4年12月

麻生支部授業研究会

11月16日(水)に岡上小学校にて麻生支部授業研究会が行われました。ご多用の中、多くの方々にご参加いただきありがとうございました。

研究協議では、4つの場を残してワールドカフェ形式の実技検討にしてみました。多くの方から意見や感想をいただき、活発な意見交流ができました。話題になったことや意見・感想をまとめてみました。

～ 支部でめざす子供の姿に迫るための具体的な手立て ～

視点1「子供たちが体の動きが高まったと実感できる運動を探る」に迫るために

1) 運動を分析する

巧みな動きを高めるための運動では「リズムカル」「タイミング」「バランス」「力の加減」の動きを高める。1つの運動には4つの動きが複合的に関係しているが、授業では、あえて運動に関係している体の動きを子供たちに伝えることで意識できるようにした。

(ラダー=リズムカル バンブーダンス=タイミング バランスボール=バランス ピットリボールキャッチ=力の加減)

2) 単元の初めに教師がそれぞれの場での運動の仕方を伝える

毎回、運動を同じ行い方で行うことで体の変化に気が付くことができる。また、行い方を知ることで動きができていないかどうかを判断することができる。

3) 子供たちが「体の動きが高まった」と感じることができる単元の構成

「体の柔らかさを高めるための運動」は、授業の初めに帯で運動を行う時間を設けた。「巧みな動きを高めるための運動」は運動の難易度で分けて設定し、徐々に難しい動きに取り組めるようにした。

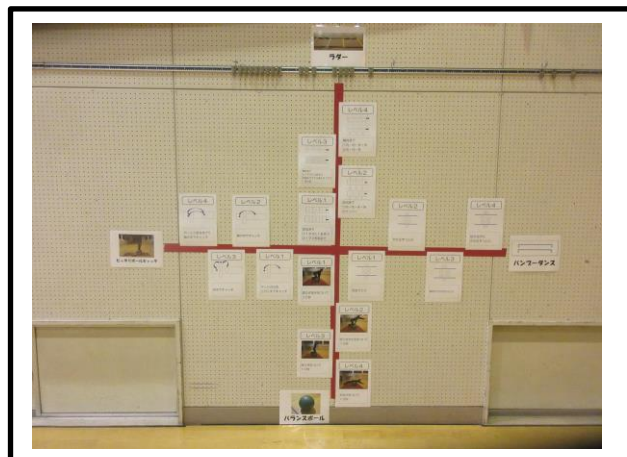
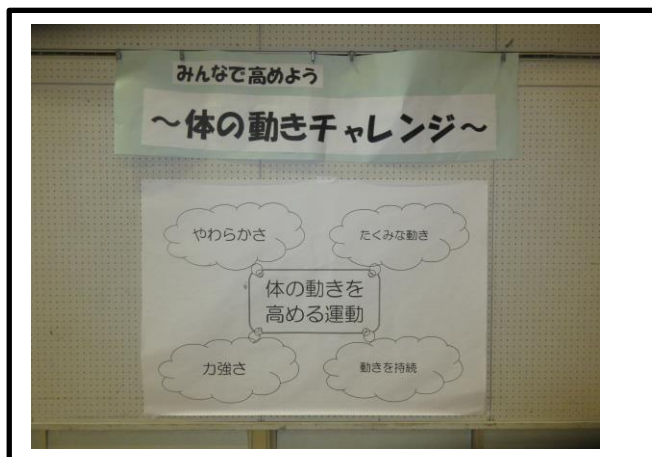
視点2「自分のめあてに合った運動を選ぶための手立てを探る」に迫るために

1) 運動のレベルがわかる図を提示する

レベルに分けた動きの行い方と写真を掲示して全体で共有したり、今の自分の体の動きがわかるようにレーダーチャートを学習カードに掲載したりした。

2) グループの友達と動きを見合う

日常生活や授業で関わり合う機会が多い生活班でグループを編成した。自分が高めたい動きや友達が高めたいと思っている動きを知るために、授業の中で伝え合う時間を設けた。



研究協議

○意見・感想

★授業者より

○「柔らかさ」「巧み」以外の動きは、どのように扱っていくのか？ 2つに絞った意図は？

★子供たちが動きの高まりを感じるために、しっかりと時間をとることが必要だと考えた。「柔らかさ」と「持続」は、帯で行う方が高まりを感じられると考え、5年生で「柔らかさ」「巧み」、6年生で「持続」「力強さ」とした。

○グループ(生活班)での活動としたメリット(見合う、アドバイス)もあるが、デメリット(恥ずかしい、じっくりと個人で取り組みたい)もある。個人での活動の時間があってもよかったのではないかな？

★①クラスの実態として関わりを大切にしていたため、体育に関わらずグループで行っている。

②大人になってからのことを考えて、人と関わりながら高めることのよさを感じたり、人と楽しむよさを経験したりしてほしい。「できなかったことは、次の時間にやろう」という形にした。

○(グループ活動で)今日がんばりたいということができているのか？ めあてに合った場に行けるのか？

★教師がめあてを集約して、言葉をかけていくようにした。

○レベル4に到達した子は、友達のアシストやフォローをする姿があった。また、次の時間に向けてアレンジや工夫に目を向けている子がいた。

○レベル設定したことで「できた」を感じることが、「できた」で終わってしまわないために、自分の中で新たなもの(レベル4以上)を考えることや、教師が「できることを続ける」などの言葉をかけることも大切だろう。

○「ピットリボールキャッチ」の人气があまりなかったのは、なぜか？ 高さを変えるとよいのでは？

★レベル1から難しかったのかもしれない。マットがないパターンから始める方がよかったかもしれない。

○ラダーでは「できた」後に速さを追求する姿もあり工夫に繋がっていた。また、できるようになった子が友達に教える姿や、できない子ができた子に「教えて」と言っている姿も見られた。

○バンブーダンスでは、曲があることで「できた」が明確だった。短縄にしたことは、恐怖心が取り除けていた。

指導講評：原 剛 先生(川崎市立小学校体育研究会助言者、川崎市立西梶ヶ谷小学校総括教諭)
「体の動きを高める」とは…「柔らかさ」「巧み」「力強い」「持続」の動きを高めることであるが、指導要領には「運動の楽しさを味わいながら」とある。つまり「楽しく、高めることが大切」だということ。

この運動の楽しさは…「体の動きを高める→高まったかどうか」に特化すると体カトレーニングとなる。めあてのもち方(もたせ方)がこの学習にとって大切なのではないかな。楽しさの質が変わってくるのでは。

まとめ1 <体カトレーニング学習にしないために、めあてを大切に!>

①今日は ~ を高めたいです。理由は ○○ だからです。

②そのために ~ に気をつけて

③ ~ の場(方法)で

ふり返りでは、高まった動きと理由についてを主に視点にし、めあてを深めていきたい。

*この運動の工夫の考え方:場ややり方が楽しくなるだけでなく、どうしたらうまくできるか。

*体づくり運動共通:易しい運動を繰り返す(負荷だけ、難度を上げるだけではない!)

まとめ2 <単元構想も検討するとよい>

4つの運動を味わわせることは必要不可欠。

*高まった感を大切にするのか、動機づけが大切なのか、両方なのか。

まとめ3 <2支部の研究成果で見えてきたこと>

高津支部:運動を楽しみながら高まる→動機づけ・継続性要素が大きい→必要感を大切にす

麻生支部:高まりを感じながら楽しむ→実感・見える化を大切にす→課題解決型

*楽しさも高まりも両輪で進む授業づくりをめざしてほしい